

H25. 8. 3

## 理性を感情でカバー



**長尾和宏** (ながお・かずひろ)  
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。55歳。

私が夜に訪問して診ている認知症の人の中に、どう診ても認知症とは思えない人がおられます。私が訪問する時間にはまだ子供さんは仕事から帰っておらず、いつも一人。90歳をとくに過ぎた彼女は若い声とすてきな笑顔で私を出迎え、お茶を入れてくれます。彼女と楽しく世間話をしていると、その人がとても認



「認知症ケア」シリーズ⑩

&lt;最終回&gt;

けが失われているのです。これが認知症という病気。その足りない部分だけを、誰かがカバーすれば普通に生きることができます。

認知症の人は理性を感性でカバーしています。感性が普通の人より敏感です。従って感性には感性で対応するのが賢明です。薬剤で感性を変

えることはできません。正しい認知症ケアで暴言や暴力、被害妄想などの周辺症状を抑えることができます。

## 薬の前に正しい認知症ケアを

認知症には現在、4種類の

**アリセプト** 塩酸ドネペジルの商品名。アルツハイマー型認知症に適応できる抗認知症薬の代表格。認知症の中核症状の進行を遅らせる。3、5、10ミリの3剤型がある。ゼリー、口腔内溶解剤もある。

ります。少し減らせばいい感じという人もいますので、さじ加減が大切です。

代表的な抗認知症薬であるアリセプトは、3ミリを2週間服用してから5ミリへ、高度認知症なら10ミリへと増量することになっています。しかし3ミリのままが一番調子がいいという人が何人もいました。あるいは、医師によって1ミリから、1ミリ単位で増量するケースもあります。

他の3剤も、階段を一段一段上がるように増量することになっています。しかし個人で合う量が異なります。認知症の薬はよく観察しながら適量を見つけて上手に使うことが大切です。

薬が使われています。いずれも認知症の中核症状の増悪を遅らせる薬ですが、周辺症状も改善する効果もあります。正確にいうと、1年間程度記憶の低下を防ぐ薬もありま

「あなた」の人生の始まりに私がしっかりと付き添ったように、私の人生の終わりに少

私の経験では、薬が合う人と合わない人がいます。合う人は別人のように改善しますので、薬に感謝します。一方、薬が合わないという人中には薬が多すぎる場合があ

介護者ももっと賢くなることも必要です。家族の接し方

その歌詞の意味をかみしめながら、本シリーズを終わります。

「あなた」の人生の始まりに私がしっかりと付き添ったように、私の人生の終わりに少